



施設名	小樽港北防波堤		 <p>廣井勇 出典:工学博士 廣井勇 伝</p>  <p>小樽築港北防波堤 出典:土木学会北海道支部 選奨土木遺産HP</p>						
所在地	北海道 小樽市								
管理者等	小樽港港湾管理者(小樽市)								
施設種類・分野	港								
施設概要 (明治期との関連含む)	<p>小樽は、明治時代から鉄道が開通し港湾の整備が進められたことにより商業都市として急速に発展した。</p> <p>この発展を支えた小樽港の北防波堤は、「近代港湾の父」と称される廣井勇氏により日本初の本格的なコンクリート製外洋防波堤として明治後半に建設されました。日本海の荒波に耐え、100年の時を経た今でも建設当時の機能をそのまま保ち、港に出入りする船を守り続けています。(文献1より引用)</p>								
築造時期	明治後期	時期詳細	明治41年						
関連人物	廣井 勇								
トピックス (特徴的エピソード)	<p>1897年(明治30)年4月27日、廣井は小樽築港事務所長を命じられ、5月9日より工事に着手した。最も波浪が激しい、防波堤先端から1098メートルをスローピングブロックシステムによって建設した。</p> <p>廣井は率先して第一線に立ち、細かなところまで徹底的に改良し段取り等を実行してみせた。朝は誰よりも早く現場に出、夜は遅くまで事務を執り、また部下や作業員に対し尊大ぶるところが微塵もなかった。</p> <p>小樽は毎年11月には気温が氷点下になり、4月にならなければ霜雪が去らないので、コンクリートブロックの製作は4月から10月までに限られ、熟練工を除いて労働者は一旦解雇せざるを得ず、不便不利が頗る多かった。また冬期には海上が荒れて用材の運搬が困難であり、陸上は積雪のため作業ができなかった。工事全体を指揮監督し、率先して模範を示していた廣井にとっても未経験のことが多く、精神的、肉体的負担は尋常なものでなかったに違いない。(文献2より引用)</p>								
歴史的な遺産等の指定の有無等	○	選奨土木遺産(土木学会)	○	文化財(文化庁)	—	近代化産業遺産(経産省)	○	世界遺産(ユネスコ)	—
		その他の指定・認定		北海道遺産(http://www.hokkaidoisan.org/heritage/016.html)					
その他 (関連資料、文献)	<p>文献1:公益社団法人 土木学会北海道支部 北海道選奨土木遺産カード (http://www.jsce.or.jp/branch/hokkaido/_contents/heritage/01.htm)</p> <p>文献2:シビルエンジニア 廣井勇の人と業績(著者 関口信一郎)</p>								
管理者等のHP (URL等)	小樽市 https://www.city.otaru.lg.jp/jigyo/otaruport/								